

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【8 月度の御金言】此経をききうくる人は多し、まことに聞き受くる如くに大難来れども憶持不忘の人は、希なるなり、受くるはやすく持つはかたしざる間成仏は持つにあり
『四条金吾殿御返事』（全集 1136 頁）

法華講信条

- 1, 謗法厳戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991 年 2 月 13 日掲揚

☆ 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

【法門と、かやぶきの家に降る雨は、内で聞かずに外に出て聞け】

という言葉が有ります。どういう意味かということ、日蓮大聖人の法は、どういう法なのかを家から出て、求めて聞きに行かないと、どんどん一人で自己流、自己中心の考え方になって、自分の考えが日蓮大聖人の法であるという状態になり、何十年後に自分の考え方と日蓮大聖人の教えに相違点があるという事を教えられても、日蓮大聖人の方がおかしいと反発を抱く人がいます。入信した時に先輩幹部に教えられた事や、親が教えてくれた事が、日蓮大聖人の法そのものだと思い込み、それ以外の内容には聞く耳を持たないという人もいます。この世の中で、日蓮大聖人の法の全部を知っている人はいません。私自身も、小僧の時から、「戒壇本尊絶対」「血脈相承絶対」と教え込まれて育って来ました。何故絶対ですか？と尋ねると、絶対だから絶対なんだ、「戒壇本尊」「血脈相承」の中味は何ですか？と尋ねると、頭でっかちになるな。と言われました。今も、その二つで満足して日蓮大聖人の法は、この二つだと頑迷に思い込んで、この二つを広宣流布するんだと主張している大石寺の僧俗もいます。しかし、

私は、そんな形が法だという教えを広宣流布して一切衆生が成仏するわけがない。日蓮大聖人の法はそんなものではない、戒壇本尊を躰すまでの日蓮大聖人の悟られた法。日蓮大聖人の生きていた時には血脈相承なんて無いんだから、その源になる法こそ私達が信じ求めなければいけない、一切衆生に広宣流布し伝えなければいけない、一切衆生成仏の法なのであります。

自分の考えに固まっていますはいけない、妙法の縁を大切に求めて求めて、日蓮大聖人は、この時にはこの様に行動した。この時にはこの様に行動した。この人は、ここに重心を置いて信仰をしている、この人は、ここに重心を置いて信仰をしているという事を、外に出て、沢山の人の姿と言葉に触れて、法の広さ、深さを学ばなければいけないのであります。自分だけの思い込み固定観念では、外で雨が降っているかどうか、やわらかで厚いかやぶきの屋根の下にいれば分からなくなってしまうのであります。一人の固定観念だけでは日蓮大聖人の法を信仰する事は出来ないのであります。